# 市民文化・芸術振興 礎となる条例作りを

その他の質問
○平成20年度の岸和田市文化財団の監査報告

小寺　峰男 議員

**【問】文化・芸術振興条例の制定については、これまでの議会で度々質問し、前向きに検討しているとの答弁であった。**
**進ちょく状況について聞きたい。**

【答】市長公約の一つであり、条例は制定する方向である。

策定作業は、文化の主体である市民を中心とし、学識経験者などを加えた策定委員会を立ち上げ、素案作りを行う。

市民に周知するとともに、広く意見を聴取するため、フォーラムやパブリックコメントも実施したうえで、23年度中の制定をめざしたい。

**【問】条例の制定後、条例の趣旨を生かした文化振興を推進するため、どのような展開を考えているか聞きたい。**

【答】条例の実効性を確保するため、より具体的な文化振興計画の策定が必要と考える。

計画では、条例の策定委員会での課題をさらに掘り下げ、文化振興に必要な要素を洗い出す。市民にゆだねる部分と行政が担うべき部分を整理し、本市の地域性を加味しながら、条例の方向性を実現するための方策を取りまとめたい。

# ユニフォームの統一で 大きな抑止力

山田　幸夫 議員

**【問】子どもたちの登下校中における交通事故や不審者による被害が社会問題となっており、学校・家庭・地域で児童の安全を確保しなければならない。**

地域のボランティアからなる子どもの安全見まもり隊によって、安全で安心して登下校できているが、地域によってその体制は必ずしも統一できていないのが現状である。

だれが見ても見まもり隊であるということが分かる必要があり、それが不審者にとって大きな抑止力になる。

**そこで、統一したユニフォームを支給する必要があると考えるがどうか。**

【答】子どもの安全見まもり隊は、PTAや地域住民が中心となり、学校・地域・家庭が連携し、見守り活動に取り組んでいる。

見まもり隊には、腕章や旗、自転車用プレートなどを配布しているが、ユニフォームは校区で独自に作成しているところもある。

年々活動が活発となるなか、腕章・帽子などの追加要望も出てきている。見まもり隊であることを明らかに示せるものを配布できればと考えている。

おかえりなさい

# 利便性が高く 地域に密着した市民センターへ

信貴　芳則 議員

**【問】現在、本市に3カ所ある市民センターは、サービスセンター、図書館、公民館の3つの機能を備えた複合施設となっている。建物は一体であるものの、それぞれの機能を別々に運用しているのが実態である。**
**3つの機能を一体的に運用するには、それぞれの業務のエキスパートが必要と考えるがどうか。**

【答】サービスセンター業務は、市民に直結する窓口であり、複数のサービスを提供している。居住地に近い場所でサービスが提供できるよう、常に本庁と連絡・連携し、制度の変更などにも対応している。

図書館・公民館では、市民生活部の職員が業務を行っている。特に図書館業務については、資料や情報を提供する際、専門知識やスキルが必要なため、研修の機会を設けている。

今後、地域密着型のコミュニティセンターとしての運用ができるよう、組織や人員配置などを調整・検討していきたい。

**【問】業務ごとに異なる開館時間についてどのように考えているか聞きたい。**

【答】市民がより利用しやすい開館時間帯や開館日を今後、検討していきたい。

山直市民センターで

# 子どもの心をはぐくむ 読書環境の充実を

米田　貴志 議員

**【問】これまでも一貫して読書活動の推進を訴えてきた。平成16年に策定し、実施してきた子ども読書活動推進計画は、すでに5カ年の計画が終わっている。現在どのようになっているか、また子ども読書活動推進会議はどうなっているか聞きたい。**

【答】このまま計画を推し進めるのか、社会情勢が変化したこともあり、第2次計画の必要があるのか検討している。推進協議会で、22年度に子どもを取り巻く読書環境の変化を知るためのアンケートを実施し、これまでの計画の検証を行い今後の方針を決めたい。

**【問】図書館に、市内の観光に関する情報コーナーを設けてはと考えるがどうか。**
**また、利用者のさらなる利便性アップのため、電子図書館の機能を兼ね備えるべきと考えるがどうか。**

【答】観光案内コーナーは関係各課で連携し、設置を検討する。

電子図書館機能については、どのように活用できるのか調査しており、時間的制約で来館できない人や障がいのある人、読書離れが問題視されている青少年への新しいサービスと思われる。今後、課題と問題点を研究していく。

# 安全で安心なまち 実現への取り組みは

雪本　清浩 議員

**【問】安全で安心して暮らせるまちの実現は、市民のだれもが願っている。警察は、日々、地域防犯に取り組んでいるが限界があるのも事実である。**
**本市は、地域防犯にどのように取り組んでいるか聞きたい。**

【答】本市は、警察や市民、市民団体、事業者などと一体となり、安全なまちづくり推進協議会を立ち上げ、地域の犯罪防止や抑制に取り組んでいる。

また、市民の自主防犯活動を育成するために、登録防犯ボランティアによる見回りや、青色防犯パトロールなどの防犯活動を支援し、一定の成果を上げている。

**【問】地域から積極的に防犯活動を行いたいとの声が上がれば、本市も支援すべきと考える。府の補助制度を活用すれば市の財政も地域も助かり、活動がより活性化すると考えるがどうか。**

【答】府の地域力再生支援事業は、小学校区単位で防犯、防災など、住民主体の取り組みを広げるための事業である。町会連合会・市民協議会連合会と協議を進めており、平成23年度補助事業として、本市も取り組んでいきたい。

巡回中の青パト

## 先進事例調査のため11月に行政視察を実施

### ◆文教民生常任委員会

**☆越前市での視察内容…「中学校給食のあり方について」**

越前市のスクールランチは、献立や食材に関する情報を参考にしながら、栄養のバランスを考え、メニューを予約するシステムであり、家庭から持参する弁当と選択できる。

メニューが選べ、量も調整できるため、食べ残しが非常に少ない。視察した中学校では、約7割の生徒がスクールランチを利用している。

**☆小浜市での視察内容…「食育における学校給食のあり方について」**

小浜市では、地域の協力により、地元でとれた食材を使い各小学校で調理している。生産者の顔が見えるため感謝の気持ちが生まれ、食べ残しも大幅に減っている。ワカメや魚の漁、田植えや稲刈りなどの体験学習で収穫した食材も学校給食に利用し、子どもたちの食育に結びつけている。

### ◆議会運営委員会

**☆市原市での視察内容…「市原市民に元気な笑顔を広げる地産地消推進条例について」**

市原市議会では、議員による政策条例を制定している。同市が抱える課題を調査することから始め、積極的に市民や事業所などの声を聞きながら条例作りを行った。

条例制定後、地産地消が推進され、数多くの行事も開催されている。

**☆富士市での視察内容…「インターネットを使った議会中継、議会改革について」**

富士市議会では、庁内のイントラネット中継を活用することで、導入費用をかけることなく生中継、録画中継を実施している。

また、議会改革のための検討委員会を立ち上げ、請願者・陳情者の意見陳述や議会報告会、議会モニターの設置などを盛り込んだ議会基本条例の策定に取り組んでいる。

＜会議録の閲覧＞本会議（定例会・臨時会）や常任委員会などの内容を記録した会議録は、議会事務局やインターネットなどで閲覧できます。